



### ☆経腸栄養剤の分類について☆

経腸栄養剤には様々な分類がありますが、その中で代表的な分類方法として窒素源別の分類があります。以下は窒素源別の経腸栄養剤の分類表です。(厳密には食品は濃厚流動食、薬品は経腸栄養剤という違いがありますが…)

成分栄養剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての成分が化学的に明らかなものから構成。</li> <li>大きな特徴は<b>窒素源が結晶アミノ酸で構成されている</b>こと。</li> <li>すべての成分が上部消化管で吸収され残渣はないとされている。</li> </ul> 例) エレンタール、エレンタールP
消化態経腸栄養剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的に成分栄養剤とほぼ同等</li> <li><b>窒素源がアミノ酸やたんぱく水解物または小ペプチドからなる。</b></li> </ul> 例) ペプチーノ、ペプタメンシリーズ、エンテミール等
半消化態経腸栄養剤	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>窒素源がたんぱく質(多くはカゼイン)からなる。</b></li> <li>主に消化器の安静を必要としない状態に使用</li> </ul> 例) ラコール、エンシュア・リキッド、サンエット、メディエフ等

(日本静脈経腸栄養学会編：日本静脈経腸栄養学会 静脈経腸栄養ハンドブック,P192,南江堂,2011 改)

### ☆ペプチドって? ☆

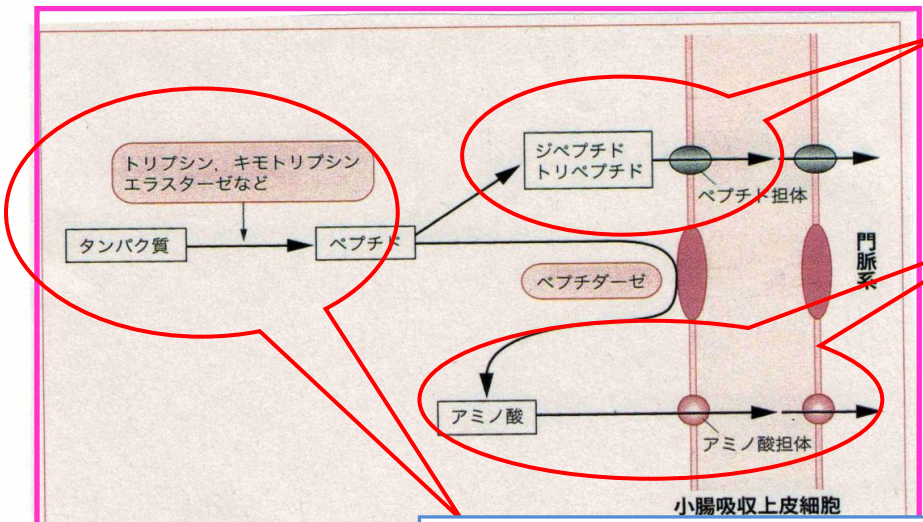
当院で最近導入されているペプチーノやペプタメンシリーズは消化態栄養剤となります。

この製剤の中に含まれているペプチドとは何でしょうか?

まず、窒素源は**たんぱく質、ペプチド、アミノ酸**と大きく分けられます。

アミノ酸は最小単位で、それが数個程度くっついたものをペプチド、たんぱく質は100個以上のアミノ酸がペプチド結合し、高次構造となっています。

たんぱく質に比べるとペプチドは消化吸収に負担がかかりにくく、そのため、下痢などの消化吸収障害を起こしにくいと考えられています。



ペプチーノやペプタメンシリーズ等はこのペプチドを利用しています。

エレンタールに使用されているアミノ酸は窒素源の最小単位です。

病態に合わせて、栄養剤を使い分けてみてください。  
お悩みの際はNSTや管理栄養士までお気軽にご相談ください!

たんぱく質は消化吸収に様々な酵素を使い、消化吸収負担が大きいです。



(大熊利忠他：キーワードでわかる臨床栄養,P78,羊土社,2007 改)